

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0171100266		
法人名	株式会社サンボウ		
事業所名	グループホーム めくもりの里		
所在地	千歳市住吉4丁目8-14 (電話) 0123-26-5886		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	平成19年12月17日

## 【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤14人, 非常勤1人, 常勤換算	13.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1~2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 30,000円
敷金	無	暖房料	4,000円(4,5,10月) 7,000円(11~3月)
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

### (4) 利用者の概要(10月21日現在)

利用者人数	17名	男性	6名	女性	11名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0		
年齢	平均 83.2歳	最低	69歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	北星病院・北星館(老人保健施設)・浅沼皮膚科・はた歯科クリニック
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム全体はゆったり感があり、生活感と季節感を取り入れ、家庭的な雰囲気の中で利用者本位のサービス提供が行なっている。若い職員の年齢や経験差を配慮し「意見ポスト」を設置し、投函された思いや疑問はユニット会議で真剣な協議を経て意見反映を行ないサービスの質向上に繋げている。週3回の訪問リハビリを全経費会社負担で実施し、身体機能の維持に力を入れている。食事は栄養バランスをもとにアイデアを取り入れた和洋折中料理など、安価で美味しい料理の提供に努めている。利用者の姿を満載した「めくもり通信」など、いずれも家族から好評を得ている。今後は、地域密着型サービスとしての事業者の役割を明確にし、方針・目標の具現化・実践化の取り組みを期待する。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>9点の改善課題はホーム長を中心に母体や職員とで検討し、活動意欲の触発物品の配置や介護計画の期間設定を始め研修資料の分類は改善したが、多くは継続し検討中である。地域住民との双方向的な交流、施設のない自由な暮らしや食事を通じた関係作りなどは、早急に改善が求められる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長の説明により、全職員はケアサービスの現状を省み評価を行った。整理した評価結果は掲示し現状を全職員が共有している。ホーム長を中心に母体や職員とサービスの質改善に向けて検討している。評価の一連の過程を通して職員はケアの意識改革につなげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成18年6月、町内会より相談役と福祉部長、利用者の家族代表2名、地域包括支援センター、法人課長とホーム長の7名により1回目の会議が開かれ、以降は6ヵ月間隔に3回開催している。ホームの活動状況の報告を中心に評価・助言を得ているが、運営推進会議がサービスの質確保に機能的で十分な役割を果たせている状態にはなっていない。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族来訪時には、ホーム長より「何かあれば何時でも・・・」、「私が不在の時には誰にでも・・・」と、話し合いの機会を重視し改善に努めている。外部者の相談は入居契約時に説明し、苦情受付機関と苦情発生時の手順・処理方法を示している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域行事を始めゴミ拾いや清掃活動などに参加しているが、事業所行事への住民参加はなく、地域住民と利用者の双方向的な関係作りができていない。地域密着型サービスとして利用者の地域生活を支える場にはなっていない。早急に取り組んで頂きたい課題の1つである。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表とホーム長を始め関係者により現理念を検討した結果、利用者の地域生活を支え続けることを基本に策定した理念であり、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容になっていることを確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現理念に包含している地域密着型サービスの理念をもとに地域住民との接点を拡大したい考えであるが、そのための具現化された内容が不明確であり、共有化がなされている状態ではなく、理念の実践に向けた取り組みが不十分である。	○	地域密着型サービスを包含している現理念をもとに運営方針・目標を明確にし、日々介護の場で理念の実践化を目指す取り組みが望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域行事を始めゴミ拾いや清掃活動などに参加しているが、事業所行事への住民参加はなく、利用者と地域の人々との交流は行なわれず、地域密着型サービスとして利用者の地域生活を支える場にはなっていない。	○	地域住民と利用者の双方向的な関係作りはもとより、利用者のかつての人間関係のつながりを持続させるケアの取り組みが望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長より評価について説明がなされ、全職員が個々に評価しリーダー・事務長を交え記録・整理を行なった。評価結果はホーム長を中心に母体や職員とともに検討しサービスの質改善に取り組んでいる。職員は評価の一連の過程を通してケアに対する意識改革につなげている。		

千歳市 グループホーム めくもりの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年6月に1回目の運営推進会議が開かれ、それ以降は6ヵ月間隔に3回開催している。各回ともホームの活動状況の報告を中心に評価や助言を得ているが、サービスの質確保に機能的で十分な役割を果たせている状態にはなっていない。	○	運営推進会議は、地域の理解と支援を得る貴重な機会であるとの認識を持ち、会議の意義や役割の正しい理解をもとに積極的な参加を呼び掛け、サービスの質向上に活かす取り組みを軌道に乗せることが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所では、市担当者に毎月「めくもり通信」を届け、インターネットより市の取り組みや制度に関する情報を収集しているが、市担当者と共にサービスの質向上に取り組む体制にはなっていない。	○	市担当者とは、事業所の実情や認知症ケアの実態に即した協働体制を作り上げることが必要であり、そのため事業所からは積極的な情報提供を行ない、それをもとにした関係作りが望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時には本人の近況を報告し、毎月始めには利用料金の請求に預り金出納のコピーに領収書とともに担当者の一言を添え送付している。職員の異動は面会時に知らせ、緊急用件は電話で行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には、ホーム長より「何かあれば何時でも・・・」、「私が不在の時は誰にでも・・・」と、話し合いの機会を重視し説明している。重要事項説明書には苦情受付機関と苦情発生の手順、処理方法を示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム長は、事業所の働きやすい環境作りや職員の様子には特に注意し、職員の異動を最小限に抑えるよう努めている。やむをえない異動にはケアの持続性と利用者のダメージ緩和に向け、ユニットリーダーを中心に全職員が一体となって取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、職員の希望やレベルに応じて月1回程度は出席できるようにしている。終了後は全体会議で報告し、資料は回覧・捺印を受けている。また、利用者に視点を当てた実践的な内部研修にも力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会が主催する管理者・ケアマネージャー・職員を対象にした学習会には積極的に出席している。ホーム長は、事業所の相互訪問や学習を通じたサービスの質向上を目指すネットワーク作りに関心を持ち、設立の機運にある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から利用に至る期間には、ホーム長とユニットリーダーにより1～2回は家庭訪問し、合わせて本人、家族の見学を繰り返し、安心、納得のうえで本格的な利用に移れるように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	菜園活動・洗濯物たたみ、食事一連の仕事など、利用者のできることや関心のあることなどを見極め、行なって頂くとともにその知恵を学び、感謝と支えあいの関係を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が「何を食べたい」、「どこに行きたい」、「誰に会いたい」など、日常的な会話や表情から本人本位に検討し、把握に努め、職員間で共有している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画は、担当者の意見やミーティングにおける意見を取り入れ計画作成者が作成している。利用者一人ひとりの課題を明確にし、より良いケアの在り方を検討し作成した介護計画は、常に目に届き全職員が意識して介護できるように日々の記録と一緒に置くなどの工夫がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月毎に定期見直しを行ない全職員が共有している。また、利用者の状態変化に応じて見直しの必要性が理解できる「問題改善シート」を作成している。シートをもとに家族や医療機関とも相談し臨機応変に随時の見直しを行なっている。		
<b>カ</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や入退居時の送迎は家族に代わり自主サービスとした支援している。また、地域住民より介護保険などの相談にも応じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の医師からは隔週にわたり定期的に往診を受け、看護師のバイタルをもとに健康相談をし健康管理を行なっている。また、利用者は従来らかの掛り付け医の治療を受けており、事業所が仲立ちし情報交換を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としては、重度化し医療行為や看取りの対応ができていないことを家族には説明し理解を得ている。なお、母体では訪問看護の意向を持ち検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者に対する言動は、プライバシーを損ねないように配慮し言葉掛けや係わり方に注意し穏やかに接している。また、記録は利用者の目の前で行なわないよう注意を払っている。なお、「めくもり通信」の写真掲載は契約時に家族と確認しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所には一日の基本的な生活の流れはあるが、起床、就寝、食事、入浴など、利用者の習慣や希望に即したペースを大切に個別の支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「今日は何」から始まり、調理の手伝い、配膳、片付けなどは利用者の体調や能力に応じて行ない、利用者の心身の状態に応じて食事介助を行っている。職員は利用者と一緒に食事は取っておらず、会話も笑顔も少ない利用者にとっては楽しい食事の雰囲気にはなっていない。	○	料理を「作る」「食べる」「片付ける」の一連の流れを通して、利用者と職員と一緒に食事を味わいながら、食事を楽しむものになるような支援が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や意思を尊重し、曜日、時間帯、回数などの制限はなく自由に入浴が行なえるよう支援している。入浴拒否者には気分転換を図りながら週2回は入浴できるように取り組んでいる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の一連作業をはじめ掃除、菜園活動など利用者の習慣や希望、有する力を踏まえ相談しながら場面作りを行なっている。結果の達成感を共有し一緒に楽しめるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物を始め日光浴・菜園活動・ドライブなど、天候や利用者の気分に応じて戸外に出る機会を多く作り、季節感を感じ心身の活力に繋がるように支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全確保の視点からユニット入り口は施錠し家族の理解を得ているが、自ら開錠もできず拘束されている理由すらも理解できない利用者の心情を考え、施錠をはずす準備を行なっている。	○	「安全確保」と「自由な暮らし」はともに優先すべく課題であり、運営者、ホーム長、職員が知恵を絞り創意工夫を凝らし、一日も早い「施錠のない自由な暮らし」を支える体制作りを期待する。

千歳市 グループホーム めくもりの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所の規定にもとづき、年2回消防署の指導のもとで火災発生時の対応について消防訓練を行っているが、季節・風向き・昼夜などに応じて利用者を交えての実践的訓練には至っていない。緊急時対応マニュアルはできているが地域住民との協力体制は未整備である。	○	事業者は、利用者の生命を守ることが使命である。地域密着サービスの枠組みを活かし消防署、警察、地域住民が一体となった協力体制を整備し、さまざまな場面を想定した実践的訓練が望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに心掛け食欲をそそる彩りや盛り付け、アイデアを取り入れた和洋折衷料理など、安価で美味しい食事の提供に努めている。提供した食事は写真記録に残し家族に見て頂いている。水分は医師の指示をもとに確保に努め、食事、水分摂取量は記録し全職員が共有している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニング兼リビングにつながる広々とした廊下を中心に、洗面台・トイレ・浴室などの共有空間と居室が使いやすく隣接している。ゆったりとしたソファを置き季節を感じさせる装飾品を掲示し、台所から調理の音や香りが漂い季節感や生活感を取り入れ、家族的な雰囲気を有し居心地よい共用空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた馴染の家具を始め日用品や趣味の品を置き、写真や自作品を飾るなど好みに応じた生活環境を作っている。利用者にとって安心して過ごせる居心地よい居室になっている。なお、居室内のカーテン以外の品はすべて利用者持参の品である。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。